



新田南小学校だより



令和7年（2025年）7月17日発行

子ども元気アッププロジェクト

令和7年度 めっちゃ WAKUWAKU 体育応援事業(水泳指導)

朝から怪しい天気。晴れた空がにわかに掻き曇り、大粒の雨が・・・。

実は、水泳の楽しさや体力向上を目指す授業づくりを教えていただくために、大阪府の事業に手を上げたところ、大当たりしました。

あの(公益社団法人)井村アーティスティックスイミングクラブのコーチを水泳の講師として合計5名の方が来校し、3年生の子どもたちを対象にご指導いただきました。

水に慣れるところから始まり、クロールなどの泳法についても教えていただいたのですが、さらに、音楽に合わせてシンクロ風ダンスをみんなで踊りました。最後は何と言っても、リオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲った選手に踊っていただきました。本物の演技に子どもたちは真剣な眼差しです。プールサイドを離れるときには、本物のメダルまでみせていただきました。2時間の素敵なひとときでした。子どもたちは、何を感じてくれたでしょうか。



保護者の皆様へ（お願い）

個人懇談、お疲れ様でした。

短い時間ではありましたが、担任と話すことで、学校で見える姿と家庭で見える姿で共通するところや、違いについて情報共有がそれぞれにできましたら幸いです。

さて、「ひとは、環境のいきものである」と習ったのは、うん十年前になるでしょうか。生物学（遺伝・進化の面）では、ひとも他のいきものと同様に、生き残るために少しずつ変化しながら周りに馴染んで生きていきます。一方、心の面でひとは、それぞれに与えられた場所で、どのように自分を出していくのかを探りながら生きていきます。そのとき、学校でとても頑張ってしまう子は、お家で癩癩を起してしまうことがあるかもしれません。反対に、お家で頑張ってしまう子は、学校やその他の場所で、全く違う顔を見せているかもしれません。ただ、こうして、ひとは心のバランスをとっていると思われれます。どの顔もその子自身だと考えられます。明石家さんまさんが、TVで放映されている姿と普段と同じだ！と時々言われることがあります、なかなか珍しいことではないかと思えます。

さて、色々な顔を持つ子どもの様子に、時として大人は驚かされます。懇談の時に、「学校では、そんなことをしているのですか？」と思われた方は、少なからずおられるのではないかと。気になる行動や発言の裏には、何かしらそのようにさせてしまうものがあり、子ども自身も気づかぬうちに困っていることがあります。

学校としましては、子どものことで気になることがあればお聞かせいただいで、その成長により良い関わり方等を一緒に考えさせてもらいたいと思っています。

ただ、学校もお悩みに全てお答えできるわけではなく、時には豊中市にある関係機関と連携して、その対応について学びながら、一緒に考えさせてもらっているところです。

そこで、豊中市でも子どもの相談窓口として、保護者の方や子どもたち自身が直接問い合わせできるところがたくさん掲載されているリーフレットがありますので、コドモンでも配信させていただければと思っています。お悩みの状況によって活用していただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

※「2025年度版 子どもに関する相談窓口」としてA3版カラーのリーフレットです。1年生のご家庭には既に配布済みではありますが、毎年こども安心課が取りまとめて作成されているもので、この新しいものをご活用していただければと思います。